

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌 名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	26 / 2009 / 31-36
タイトル	妙見「大星神社」の植物(3)
著 者 名	石郷岡總一郎

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

妙見「大星神社」の植物(3)

第25代 石郷岡 總一郎

青森市妙見にある「大星神社」境内の植物シリーズ第3回です。周辺部を市街地に囲まれ、島状に残された緑地になってしまいましたが、思いの外植物の種類も多く手軽に観察できる場所として紹介しています。出勤前の短時間に写真撮影を行い、後から写真をもとに同定を行っていますので、肝心のポイントが写っていないなど同定困難な事態にしばしば陥っています。もし、怪しげな記述が有りましたらご指摘下さい。また、植物自体の解説は他に譲り、大星神社境内での状況(主に経年変化に関する印象)を中心に記しています。



【図1】大星神社境内略図（再掲）
(濃緑:針葉樹、黄緑:落葉樹、淡緑:草地)

今回の執筆にあたり、どれくらいの種類の植物が撮られたか集計してみました。デジタルカメラを使い出した2005年～2008年の4年分です。それ以前のフィルムカメラ撮影分は含みませんが、重複している事が多く、もれが有っても1～2種でしょう。未同定やあやふやなものも含めて110種前後になりました。一過性の植物も含まれているかと思いますが、もっと丹念に調べると百数十種弱程度は確認できるのではないかと推定しています。

数年前までは定期的に広場の草刈りが行われていましたが、現在は通路のみの草刈りになっています。ここ数年の傾向として、ドーナツ池(図1を参照)南側の草地在オオイタドリやそれに絡まるクズなどにより覆われる傾向が強くなっています。春先から初夏にかけての観察は楽ですが、クズが繁茂する時期になると「藪こぎ」をしないと中心部へたどり着けない状態になります。通常出勤前の20分程度しか時間が取れないため、ついつい億劫になり2008年は訪問頻度が低くなりましたが、2009年になるべく通うようにしています。おかげで何種か追加確認ができています。

今回は、概ね5月から9月頃かけての目に付きやすい植物を中心に紹介します。

境内に生育する植物



クサノオウ (ケシ科)

妙見市民館の周辺に多く生えています。その他のところではあまり見かけません。草丈も有り、黄色の花が目立ちますので、目に付きやすいです。また、見られる期間も有る程度あります。同じ頃咲くウマノアシガタと、日当たりの関係か微妙な棲み分けがあり、興味深いです。

[撮影: 2007-05-11]

シャク (セリ科)

社殿南側の林下に数多く咲きます。一斉に白い花が咲く様子は見事です。問屋町の共同駐車場側が観察好ポイントになります。若干時期がずますが、良く見るとシャクに混じってクルマバソウ(第1回で紹介)も見られるでしょう。

[撮影: 2006-06-05]



カキドオシ (シソ科)

ドーナツ池の南側で5月頃に数多く見られます。咲き始めの頃はオオタチツボスミレと混在し、遠目にはどちらか分かりづらいこともあります。5月下旬頃まで咲いていますが、周りに背の高い草が生えてきますので、咲き終わりの時期は確認しづらくなっています。

[撮影: 2009-05-15]



ニワトコ (スイカズラ科)

大星神社境内に何本かはえています。ドーナツ池の南側、問屋町の道路が突き当たる辺りに高さ1m少しの背の低い木がはえていますので、目の高さで花や実をじっくり観察できます。

[撮影: 2009-05-15]



マイヅルソウ (科)

境内西側の林下に多数咲きます。花の時期がシャクやクルマバソウと重なり、また、それらが混在するため、高層(シャク)・中層(マイヅルソウ)・低層(クルマバソウ)と3種をまとめて見ることができます。

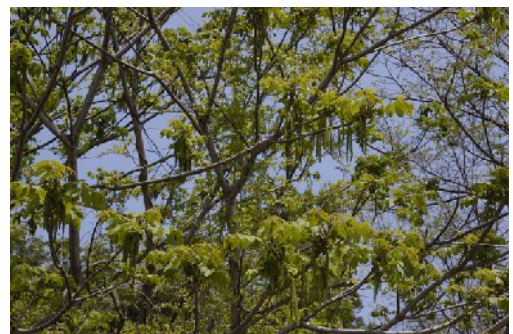
[撮影: 2009-05-09]



オニグルミ (クルミ科)

写真は、図1の左下辺り(はまなす会館駐車場側)にあるオニグルミです。5月初め頃、雄花序が長く垂れ下がります。雌花序は高いところに有るのか、なかなか見つけにくいようです。

[撮影: 2009-05-09]





コンロンソウ (アブラナ科)

データを確認したところ2007年に最初の写真が撮られていました。その際は2〜3株しかなかった記憶があります。今年(2009年)は10株前後見かけていますので、数が増えているのかと思われます。

[撮影: 2009-05-20]



ヘラオオバコ (オオバコ科)

神社境内主要部ではあまり見かけません。問屋町との境界沿いに良く生えています。問屋町側で行う除草剤散布の影響もあるせいか、個体数は多くないようです。

[撮影: 2008-05-22]



ハルジオン (キク科)

雪解け後に開花する背の低い植物たちの花が一段落すると、咲き始めます。この時期に花を付けている白いキクは他に見あたらないので、よく目立ちます。

[撮影: 2008-05-22]



ムラサキケマン (ケシ科)

ドーナツ池と妙見市民館の間の通路沿いなどで見られます。始めて見つけた頃にくらべて個体数が多くなっているように感じられました。一年草なので、変動は大きいと思います。やや日陰を好むとされていますので、背の高い植物が多くなった影響も有るのでしょうか。

[撮影: 2006-05-25]



ハリエンジュ (マメ科)

境内の西南(はまなす会館駐車場側)に何本かあります。一部はフジの蔓が絡んでいます。要注意外来生物リストに掲載されてからあちらこちらの木が切られていますので、追々珍しい植物になっていくのでしょうか？

[撮影: 2007-06-08]

ケチヂミザサ (イネ科)

参道沿いのやや日陰になっている部分にはえています。著名なシダレザクラの北側付近に多いようです。縮れた葉が目立つのですぐわかるでしょう。

[撮影: 2007-06-23]



ドクダミ (ドクダミ科)

ドーナツ池の東側に数メートル四方の群落をつくっていました。まとまった面に次々咲いていく白い花(総苞片)は見応えが有りました。

[撮影: 2007-06-20]



ヒレハリソウ (ムラサキ科)

ドーナツ池の北側付近の参道沿いに、整然と並んでいます。栽培しているか、栽培されていたかのどちらかでしょう。以前は食用にされたようですが、肝障害を起こすことがわかり、食品としての販売は禁止されています。

[撮影: 2007-06-28]



オオウバユリ (ユリ科)

観察をはじめた頃に見かけた記憶がありません。見逃していたかもしれませんが、ここ2〜3年で数が増えた印象があります。境内の草刈り時にも切られずに残されている事が多く、種子散布後の枯れた地上茎も見ることができます。

[撮影: 2008-07-26]



ヒルガオ (ヒルガオ科)

大星神社境内と問屋町の境界沿いに、太陽へ向かうように点々とえています。境内内部や問屋町側では、ほとんど見かけた記憶がありません。日向を好む性質と関係あるのでしょうか？

[撮影: 2008-07-26]





オオバコ (オオバコ科)

そもそも大星神社境内を観察することになった発端の植物です。問屋町から社殿へ向かう通路(ドーナツ池と妙見市民館の間)に多いです。開花の時期となかなかタイミングが合いませんでしたが、やっと撮影できた一枚です。

[撮影: 2007-08-11]



ミズヒキ (タデ科)

これも妙見市民館周辺に多いようです。他所での状況は分かりませんが、ここでは紅色と白色が半々程度の割合です。この花が咲く頃は、背の高い草も多く、多少藪こぎ覚悟で行かないといけない状態になっています。

[撮影: 2007-08-18]



キンミズヒキ (バラ科)

同じ「ミズヒキ」の名がついていますが、こちらはバラ科の植物。数はあまり多くない印象です。大星神社では、黄色い花の植物がたくさん咲きますので、何かに紛れて見落としているかもしれません。

[撮影: 2007-08-11]



キツリフネ (ツリフネソウ科)

2006年は妙見市民館の南側に見事な大群落をつくりました。写真はその時のものです。その後は、数が減少しているようです。2008年は同じエリアで観察できましたが、点々とした状態で、個体間に隙間ができていました。

[撮影: 2006-09-17]



クズ (マメ科)

近年勢力を拡大している植物の代表格といえるクズです。特にドーナツ池南側の一角がこれによって覆われてしまいます。この写真(大星境内で写した最初の花の写真)を撮影した2006年頃はまだまだ多くは有りませんでした。

[撮影: 2006-09-17]

ツユクサ (ツユクサ科)

問屋町からの道路の突き当たり付近とドーナツ池北方の参道沿いに多く見られます。参道沿いでは、湿度の関係かやや日陰になっている部分に群落をつくっています。

[撮影: 2007-09-14]



ミゾソバ (タデ科)

秋が始まる頃になると参道沿いに群落をつくります。花は、赤味の強い個体や白っぽい個体が混在しています。同じ参道沿いですがツユクサと異なり、日当たりが良い東側(参道入口側)に多いです。

[撮影: 2006-09-21]



アキノノゲシ (キク科)

淡い黄色の花なので、遠目にも分かりやすいのですが、私は近年見かけていません。環境の変化の影響か、普段行かない場所で咲いているので見落としているのか、不明です。

[撮影: 2006-09-17]



コウヤワラビ (オンダ科)

この写真を撮った場所(ドーナツ池の東側)は、最近背の高い植物が増えています。撮影当時は広い範囲を覆っていましたが、少しずつ数が減ってきているようです。

[撮影: 2006-09-17]



キンエノコロ (イネ科)

ここでは、キンエノコロとアキノエノコログサ隣り合っではえています。それぞれ直径数十センチメートル程度の群落を作っています。将来どちらが優勢になっていくのか、あるいはそのまま共存していくのか観察したいと思います。

[撮影: 2007-09-21]

